

# 居場所が分かる方法の 取り組みは？



野口 昌作 議員

町長

## 支援体制づくりを 進めている

【野口】認知症の高齢者が一人で出かけ、居場所が分からなくなり、探すのに多くの人の力を借りる場合がある。居場所が分かる機器を、困っている家庭に貸し出しはできないか。また、県事業の近所応援団結成支援事業に取り組み考えはないか。

【町長】GPSなどを活用した居場所情報システムは、平成22年から徘徊高齢者等位置検索システム利用助成事業として取り組んだ。しかし希望者がなく、25年度で打ち切った経緯がある。現在は取り組みを考えていないが、早期発見・保護の方法は検討しなければならぬ。

今年度から県事業と同じ趣旨の小地域保健福祉支援事業に取り組み、現在は支援体制づくりの検討を行っている。



健康は運動から

## 健康づくり運動の 進ちよくは？

町長  
これから  
幅広く展開する

【野口】保健課を健康対策課に名称変更し、取り組んでいる「町民健康づくり運動」の進ちよく状況はどうか。

食・運動・健診を三本柱に、鳥大医学部と連携し取り組みを展開する。

また、小地域保健福祉活動支援事業は何集落が取り組んでいるか。

【町長】「まったなし健康づくり」をキャッチ

また、支援事業は中山地区7集落、名和地区15集落、大山区14集落が取り組んでいる。

# 堆肥センター稼働の 課題は？

町長

## 散布期が集中することだ

【野口】耕畜連携で農業発展を担う堆肥センターが、いよいよ稼働する。農家の期待は大きい。

稼働の状況と見えてきた課題はあるか。

【町長】年間の生産目標を500トンでスタートした。ブロッコリー農家から、すでに560トンの注文があり、散布期が集中し、散布のスケジュールが厳しい。事故などが起きないように気をつけ、散布を進めてもらいたい。また、不足分の堆肥の確保にも努めていく。



散布開始